

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称
株式会社 ジェイ・エム・エス 三次工場
- (2) 事業所の所在地
広島県三次市四拾貫町山家350
- (3) 業種
医療用機械器具製造業
- (4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27年度を基準年度とし、平成28年度から平成32年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本方針
当工場は、医療機器を製造する工場として社会に貢献すると共に、環境保全が人の健康と豊かな生活を守るために重要である事を認識し、全ての事業活動において環境に与える影響を継続的に改善することによって、社会の信頼を高め、地域社会と共に発展することを基本方針とします。
2. 行動指針
 - (1) 環境への配慮を重視し、影響を調査及び評価し、要因を効果的に低減、または削減するために達成すべき環境目的、及び環境目標を定める。
 - (2) 環境への影響を低減、または削減する計画を立案し、実施し、成果を評価して見直し、更には次なる改善目的及び目標につなげるためのシステムを構築する。
 - (3) 法規法令やルールをよく理解・遵守すると共に、自主的な環境管理基準を策定し、環境保全に努める。
 - (4) 従業員に必要な教育を行い、環境保全意識が高く、なすべき行動がとれる人材に育成する。
3. 具体的行動
 - (1) 省エネルギーの推進
 - (2) 廃棄物の排出量削減
 - (3) リサイクルの推進
 - (4) オゾン層破壊物質及び特定化学物質や有機溶剤等の使用量の削減
 - (5) 環境保全活動への積極的な参加

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）		
	平成2年度	基準年度 平成26年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素		6,199	6,184

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）		
	平成2年度	基準年度 平成26年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素		20.4	24.6

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）		
	平成2年度	基準年度 平成26年度	直近年度 平成27年度
メタン		2.132	2.132
一酸化二窒素		24.5	22.53
HFC PFC SF ₆			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：生産金額 (百万円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成27年度)			原単位 削減目 標	目標年度 (平成32年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位(c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	6,160	2,868	2.15	1.8	5,988	2,837	2.11
非エネルギー起源CO ₂							
メタン	2.132	2,868	0.000743	1.3	2.08	2,837	0.000733
一酸化二窒素	22.53	2,868	0.007855	1.0	22.07	2,837	0.007779
フロン類							
総排出量	6184.6	2,868	2.16	1.9	6012.1	2,837	2.12
エネルギー消費原単位 (原油換算k1)			0.8511	2.0			0.8340
目標設定の考え方	エネルギー起源、及びその他のCO ₂ 排出量は原単位ベースで年0.4%の削減率						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	電気の原単位を0.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンプレッサーの停止制御 ・ エアコンプレッサーの配置変更 ・ インバーター機器の使用 ・ 高効率照明器具、LEDへの更新
2	燃料使用量の削減	A重油の使用量を22%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放熱対策の強化 ・ 廃熱回収利用の強化 ・ 蒸気消費設備の見直し ・ 蒸気ボイラーの更新
3	廃棄物の削減	廃棄物を2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルの強化
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

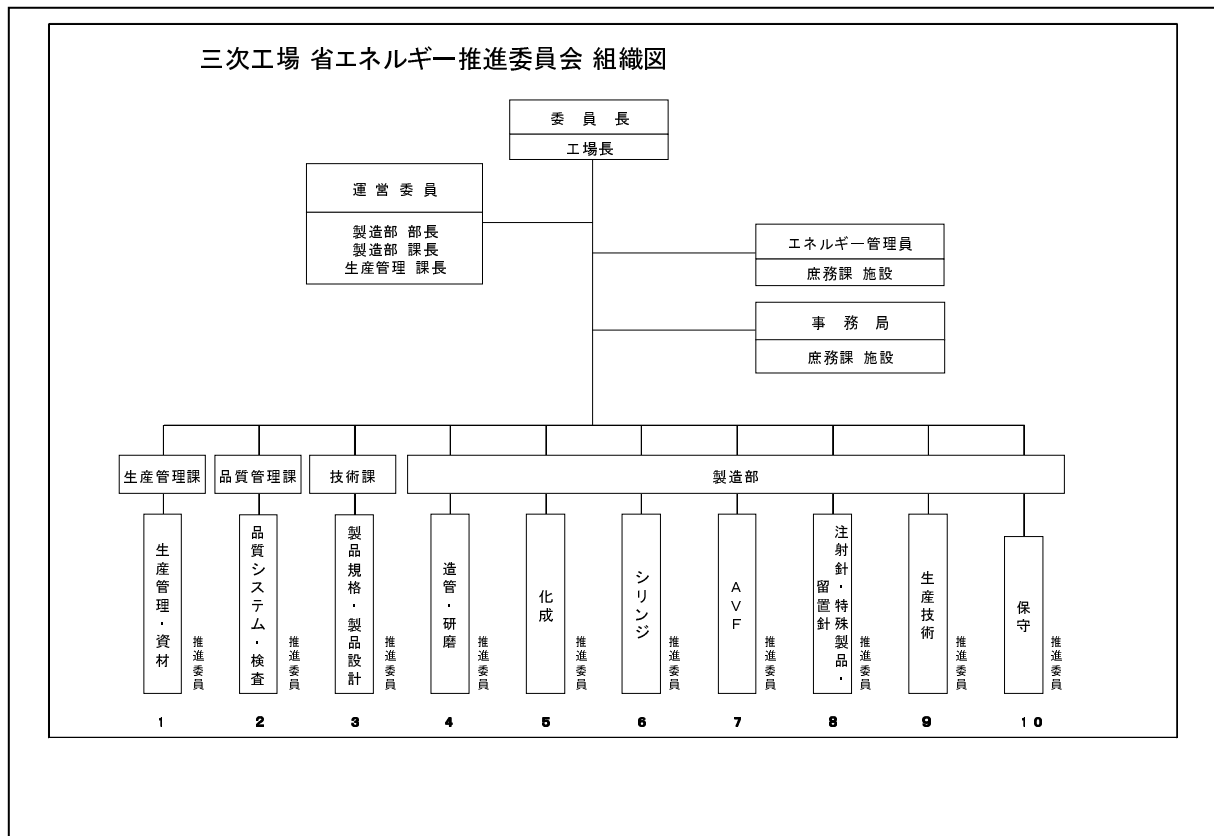
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

省エネ推進委員会の活動には、省エネ、及び温室効果ガス削減活動を含め、エネルギー消費と温室効果ガス排出状況の把握、削減計画の進捗状況の確認を定期的に行なう。

また、問題点の抽出と対策を協議し、計画・実行・検証・処置（改善）を行い、継続的な向上を図る。

毎年度の状況等については、計画書と共に公表する。

(3) 計画書等の公表

- ・当社のホームページ上で公表する。